

安来市森林・林業・木材産業振興ビジョン

概要版

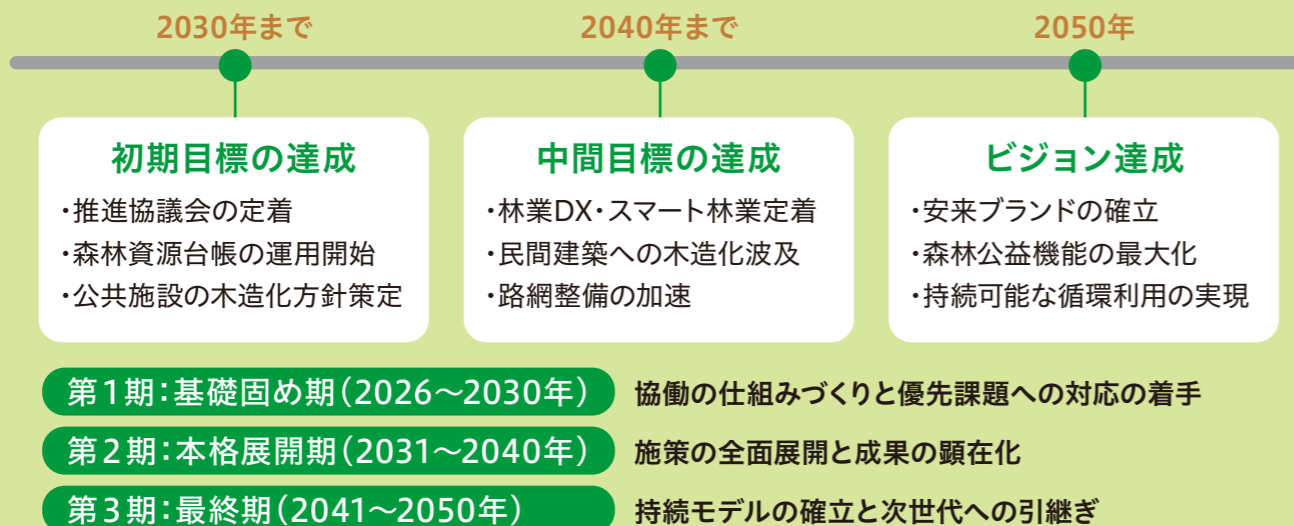
3 ビジョンの推進体制（産官学民協働の場づくり）

本ビジョンの推進にあたり、産官学民の連携による「安来市森林ビジョン推進協議会（仮称）」を設置します。協議会では、各種取組の進捗状況や課題を共有、適宜見直しを行い、「オールやすぎ」による将来像の実現に向けた取組を推進します。



4 将来の展望

本ビジョンの実現に向け、ビジョンの期間を3つのフェーズに区分しロードマップとして示します。なお、このロードマップは固定的なものではなく、社会情勢や技術革新のスピードに応じて柔軟に見直しを行います。特に5年ごとの中間見直し時には、各段階の目標や施策を精査し、必要に応じて前倒しや延長を調整します。



2050年までのロードマップ

1 ビジョン策定の背景・目的

将来像（目指すべき2050年の安来市の森林の姿）

森林の多面的公益機能を十二分に発揮しつつ、持続可能な形で木材生産も行われている理想的な姿



将来像（イメージ）

安来市の市域の7割を占める森林は、水源かん養や土砂災害の防止、木材の生産、地球温暖化の原因となるCO₂の吸収や生物多様性の保全などといった公益的機能を発揮し、私たちの暮らしの根底を支えており、その重要性は益々高まっています。

しかし、長年にわたる木材価格の低迷や担い手不足により、森林資源が十分に活用されないまま、管理が行き届かず荒廃する森林が今後増えていく恐れがあります。

そうした中、2050年という長期的な視点を持った上で、森林・林業・木材産業の目指すべき将来像とその実現に向けて、今後「オールやすぎ」で取り組む方向性などを市民・事業者・行政で共有するため、本ビジョンを策定しました。

2 将来ビジョンの全体像

■基本理念・基本方針・基本施策

目指すべき2050年の将来像の実現に向け、以下の基本理念・基本目標・基本施策を基に、「オールやすぎ」で取組を推進します。



■当面の取組

本市において特に緊急性・重要性が高い課題に対し、当面の間、以下の4つの取組に注力していきます。

①重点整備計画の策定と実行



防災・水源林の重点的な整備を適切に実施するため、森林資源データ等を活用し、整備計画の優先順位付けと整備に取り組みます。

②集約化モデルケース事業



計画の策定・実行に取り組みます。集約化・基盤整備の加速化のため、森林経営管理制度によるモデルケースを設定し、集約化と路網計画の策定・実行に取り組みます。

③木材利用促進基本方針と行動計画の策定



公共・民間建築における木材利用を促進するため、安来市における「木材の利用促進に関する基本方針及び木材利用行動計画」の策定します。

④林業の担い手確保・定着・育成総合支援事業



特に人手不足が顕著な林業事業体に対して、担い手確保・定着のための総合的な支援策を展開します。

※1:森林経営によるCO₂吸収量などを、国がクレジットとして認証する制度

※2:手入れがされていない森林について、市町村が仲介役となって森林所有者と林業経営者を繋ぐ制度

※3:デジタル技術やロボットなどの先端技術により、省力化・効率化を図る林業